

会報

第120号

令和2年2月7日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112
発行：文久堂

「共通点」



新潟県特別支援教育研究会
副会長 阿部 隆一

相反する決め台詞が印象に残る、二つのテレビドラマが昨秋ありました。一つは、外科医が主役。難しい手術でも、「私、失敗しないので。」と言い切り、成功します。もう一つは、事故調査委員会に属する大学教授が主役。悩んだ末に、「私、失敗しちゃった。」とつぶやき、考えを改め原因にたどり着きます。前者の外科医は、傲慢な人ではありません。患者に対して失敗は許されなからと、強い責任感と使命感から研鑽を重ね、日々手術にも、複数の術式を入念に調べて臨みます。後者の大学教授も、いい加減な人ではありません。努力して原因究明に取り組んできたにもかかわらず、自説に固執せず、目の前の事実を冷静・客観的に受け止め、考えを修正します。決め台詞が相反する主人公ですが、二人は似ており、共通点は、最善を目指し続けるプロ意識にあると私は思います。

この外科医と教授の姿に、私は、新潟県特別支援教育研究会会員との共通点を感じます。私たちの研究会は、特別支援学級及び通級指導教室を設置する小中学校、そして特別支援学校の教職員が会員です。特別支援学級、通級指導教室、特別支援学校。いずれも、「個々の児童生徒の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用する」義務があると、学習指導要領にあります。個別の指導計画は、「障がいのある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの」です。「個別の指導計画に基づいて指導を行うことが必要」であり、計画は「適切かつ具体的」でなければなりません。児童生徒が、「主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的に捉えることができ」て、「発達の遅れている側面を補うために、発達の進んでいる側面を更に伸ばす」ような指導内容も設定することが、私たちに求められています。冒頭の外科医のごとく、責任感と使命感、研鑽が必須です。

しかし、個別の指導計画は、作成することがゴールではありません。「指導は、児童生徒の実態を的確に把握した上で個別の指導計画を作成して行われるが、計画は当初の仮説に基づいて立てた見通しであり、適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものである。したがって、学習状況や指導の結果に基づいて、適宜修正を図らなければならない。」と、学習指導要領は断言します。ドラマの大学教授と同様に、目の前の事実を謙虚に受け止め評価し、冷静に修正を図る姿勢が必須です。私たち会員は、公立校のプロ教職員ですから。

令和元年度 主な事業報告

理事会・評議員会

- 第一回理事会・評議員会（6月11日）
- 第二回理事会（2月3日）

研究大会

- 上越地区 柏崎・刈羽大会（8月9日） 刈羽村生涯学習センター ラビカ他 約350名

- 中越地区 県央大会（11月29日） 三条市栄体育館他 約200名

- 下越地区 胎内市大会（11月21日） 胎内市産業文化会館 約270名

研究部会

- 知的障害部（8月5日） 江南区文化会館 約200名

- 自閉症・情緒障害部（8月6日） 中之島文化会館 約270名

- 肢体不自由・病弱・身体虚弱部（8月5日） 見附市立今町小学校 約40名

- 言語・難聴部（7月26日） 新潟市天寿園 約70名

- 視覚障害部（7月31日） 新潟ふれ愛プラザ 約50名

全特連関係

- 全国・関プロ大会埼玉大会
提案者1名、司会者2名、助言者1名
会長、副会長、事務局派遣

（10月17・18日） 大宮ソニックシティホール他

会報

- 会報119号発行（7月）
- 会報120号発行（2月）

令和元年度 各地区研究大会 報告

上越地区・柏崎刈羽大会

大会主題「共生社会の実現を目指した切れ目のない一貫した指導・支援の在り方」のもと、上越地区の学校関係者、保護者、地域住民、福祉関係者など三百五十名を超える参加者を得て開催しました。

今回の開催にあたり、参加者のニーズに合わせて、今日の課題を焦点化し、より充実した分科会となるよう、今までの六つの分科会を五つの分科会に再編しました。新規に「学習を効果的に進めるためのICTを活用した支援の在り方」という分科会を設定しました。実際にICTを体験する場もあり、参加者に好評でした。各分科会とも、話題提供者からの実践発表や小グループでの協議を行い、アドバイザーからのご指導をいただきました。参加者は、日頃の実践の成果や課題、悩みなどを交流し、今後の指導の改善に役立つ貴重な時間となりました。

また、全体会では、和歌山大学大学院教育学研究科教授の武田鉄郎様から「叱らないが譲らない提案・交渉型アプローチの効用とその可能性」共生社会実現を妨げる一要因「発達障害のある子どもへの不適切なかかわり」

を考える」という演題でご講演をいただきました。『児童、生徒が「できない」「分らない」「認めてほしい」など立ち往生したときに、本人の主体性や自主性を重んじ、同時に寄り添いながら自己選択できる状態を設定し、指導する方法』について、具体的な資料を基に教えていただきました。これから実践してみたいと感じる素晴らしい内容でした。



会場の刈羽村「ラピカ」では、柏崎・刈羽地区の社会福祉法人や各事業所の皆様が物品販売を行いました。特別支援教育にかかわる多くの皆様の参加により、充実した大会となりました。

(事務局 柏崎市立大洲小学校)

中越地区・県央大会

大会主題「一人一人のニーズに応える特別支援教育の推進」のもと、三条市栄体育館、三条市農村環境改善センターを会場に、中越地区の小・中学校・特別支援学校の教職員、各関係機関から二〇〇名を超える参加を得ての開催となりました。

講演会では、山形大学大学院教育実践研究科教授の三浦光哉様を講師にお迎えし、「特別支援教育の授業づくりと今の学校に必要なもの」という演題で講演いただきました。特別支援教育を取り巻く現状と課題について、具体的な数字を示しながらお話しいただきました。また、「特別支援教育のシステム」の構



築・活用について、ご自身の実践例を紹介いただきました。先生が学会等で得た、最新情報も聞くことができました。三浦先生のエネルギーシユな講演を聞いて、多くの参加者が実践の意欲を高めることができました。

その後、五つの分科会(①通常学級における特別支援教育②小学校の特別支援学級③中学校の特別支援学級④通級による指導⑤関係機関との連携)に分かれて行いました。提案者による実践発表の後、協議が行われました。



いづれの分科会においても、各自の実践や悩みについて活発な情報交換が行われました。最後に、分科会指導者からの確なご指導をいただき、充実した分科会となりました。

今回の大会は、働き方改革の視点から、準備や運営を見直しながら進めてきました。お忙しい中、指導者の皆様をはじめ、提案者、司会者、記録者の皆様、大会運営にご尽力くださった皆様に深く感謝を申し上げます。

(事務局 三条市立長沢小学校)

下越地区・胎内市大会

大会主題「多様な学びの場で、共に学ぶ特別教育の充実を目指して」のもと、下越地区の小・中・特別支援学校の教職員、保護者、各関係機関から約二七〇名の参加者を得て胎内市大会を開催しました。

全体会では、胎内市教育委員会教育長の中澤毅様から、本大会を特別支援教育に関する重要な研修の場として位置付け、その推進に尽力してほしいという激励の言葉をいただきました。続いて、新潟県教育庁義務教育課の特別支援教育推進室指導主事 中静康弘様から「本県の特別支援教育の現状と課題」と題して全体指導をいただきました。新学習指導要領の全面実施を目前に控え、基本方針や改訂のポイントを押さえた上で、自立と社会参加に向けた教育活動を進めることが今後は一層重要になってくることをご講話いただきました。

その後の分科会では、①校内支援体制づくり②小学校特別支援学級での支援③中学校特別支援学級での支援④通常の学級での支援⑤通級指導教室での支援⑥家庭・地域での支援の六つに分かれ、実践発表、協議、指導を行いました。いずれの分科会においても、参加者が主体的に発言し、活発な意見交換や議論がなされました。また、分科会指導者からは、実践発表者への確かな指導をいただくことができ、大変充実した研修になりました。各自が主題に沿った取組を進める上で大きな示唆を得ることができました。

来賓・講師・指導者の先生方をはじめ、係者の皆様に心から感謝申し上げます。
(事務局 胎内市立胎内小学校)



全特連

●全国・関プロ埼玉大会

(県内派遣：提案者1名 司会者2名 助言者1名 本部役員2名)

「UDの視点を取り入れた発達障害のある児童生徒への指導と授業づくり」

～「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実施できる授業を目指して～

上越市立南本町小学校 山崎 彰 教諭

関プロ埼玉大会に参加して

上越市立南本町小学校

山崎 彰

第九部会「通常の学級における児童生徒の支援と授業改善」で提案発表させていただきました。

児童が学びやすくなるには、授業の環境整備が大切です。そのために「プロジェクト」やタブレット端末による視覚的支援環境の整備、「支援ツールやデジタル教材による読み書き支援」「出前授業による学びやすい授業づくり」について紹介しました。私が作成した「拡大ノート」「読字ガイド」「漢字ミニホワイトボード」「授業の予定ボード」といった支援ツールの使用方を実演したところ、参加者の方々に持ち帰っていただいたり、後日「データを送ってほしい」とメールをいただいたりしました。これらの支援ツールは、県教育支援システムTeaRoomで「学びの補助輪」と検索していただくだけでもダウンロードできますので、よろしければご活用ください。



本大会で得たことを生かし、児童が「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感できる支援を目指して、今後も実践を重ねていきたいと思えます。

祝 全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

中川 一之様 (前副会長 前新潟市立東特別支援学校校長)

長年にわたり、当県の特別支援教育の発展に貢献され、全国大会で表彰されました。

令和二年度 全特連のご案内

○関東甲信越地区特別支援教育研究協議会 山梨大会

令和2年8月20日(木)

甲府市総合市民会館 他
東小学校・湯田小学校

*これら研究会には、新潟県内から発表者・司会者の皆様に参加します。

○全特連・発達障害教育セミナーを30年ぶりに新潟で開催

令和2年8月17日(月) 18日(火)

日報メディアシップ 日報ホール

*講師は未定
*県内各地より、たくさんの方々の参加をお待ちしております。

○全特連全国大会長崎大会

令和2年10月29日・30日
長崎ブリックホール 他

令和元年度 研修部 研修の成果

●知的障害部

新潟大学教職大学院教授 長澤正樹様より「インクルーシブ教育システムの構築と知的障害のある子どもの教育―指導の在り方・授業―」というテーマでご講演いただきました。

新学習指導要領を見据えた多角的な視点から具体的な実践を交え、全ての学びの過程で児童の多様性を保障し指導の質を高める必要性、より適切な指導支援の場を考える判断基準を教えていただきました。また、知的障害の児童の自己肯定感を育てる授業の在り方を学び、日々の指導支援や授業改善の視点と方向性を与えていただきました。

●肢体不自由・病弱・身体虚弱部

新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室 中静康弘様より、自立活動の指導についてご講演をいただきました。

自立とは、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることであり、状態の悪い子ほど、自立活動の指導で、がらつと変わるといことが、心に響きました。「どうすれば伸びるのか一点突破を見つめる」「自分の課題と目指す姿を本人が理解して主体的に課題に向き合う」「よくなっていることを実感する」など、大切にすべき指導の視点を教えていただきました。

●言語・難聴部

国立特別支援教育総合研究所 研究事業部上席総括研究員 牧野泰美様より、「難聴・言語障がい教育担当者として大切にしたいこと」の演題で、ご講演をいただきました。

担当者として子どもたちをどう見ているか、マニュアルばかりに目が行って、子どもの心の「ことば」を聞き逃していないか、上昇する実践ばかりではなく、協道に行く指導もするべき等々、多くのアドバイスをいただきました。日頃、一人で指導を行っている難聴・言語障害教育担当者にとって心強い道標となる研修でした。

●視覚障害部

東京都葛飾区立住吉小学校弱視通級指導学級 佐島順子様より、「弱視児童生徒への指導と学習支援」について講演をしていただきました。

弱視児童への指導・支援、在籍学級担任への助言や実際の支援の仕方の提示、他児童への弱視に関する理解啓発活動など、様々な実践をお話しいただきました。弱視児への適切な支援の積み重ねが見えにくさを補いながら主体的に学ぶ子どもの姿へとつながることを改めて学びました。一人一人の見え方の確かな把握と支援について振り返る貴重な研修会となりました。

●自閉症・情緒障害部

国立特別支援教育総合研究所インクルーシブ教育システム推進センター主任研究員 柳澤亜希子様より、「学習や生活の基盤となる力をつける『自立活動』の指導」の演題で、ご講演いただきました。新学習指導要領の改訂点や自立活動の教育課程上の位置づけ、指導目標の設定の仕方、教科指導との関連等、具体的な指導事例を交えてお話ししていただきました。参加者からは、「子どもにとって必然性のある目標設定や子どもの良さや強みを生かす指導の重要性を理解できた」等の感想が寄せられました。子どもが主体となる自立活動の指導を再確認できた研修会となりました。



県特支研のHPをご覧ください

URL <http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>
 メールアドレス tokusi@niigata-inet.or.jp

編集後記

県特支研だより「No.120号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が新潟県の特別支援教育の一助となることを願っております。